

鹿南タイムズ

発行所
鹿児島県立鹿児島南高等学校
新聞部
鹿児島市谷山中央8丁目4番1号

18歳選挙権特集号

- 1面…18歳有権者投票に夢託す
- 2面…ルールを知って 安心して投票へGO!
- 3面…「本校は巨大軍需工場跡」 スクープ 勤労学徒の写真発見
- 4面…女子バレー学校応援
- 5面…部活動の活躍
- 6面…青春宅配便他

18歳有権者 投票に夢託す

70年ぶり選挙年齢改正

7月10日 参院・知事選で10代初投票

今年6月から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、有権者が約240万人増える。この歴史的改正は、世界各国の9割の選挙権年齢が18歳以上であることや、少子高齢化が進むわが国において若者の意思を政治に届きやすくするねらいがある。本校でも3年生97名が新たに有権者となり、7月10日が投票日の参議院議員選挙と鹿児島県知事選挙に臨む。鹿南タイムズでは、この投票日に向けて、3年生にアンケートを実施し「18歳選挙権」に対する意識を調査し、その分析を踏まえて、貴重な一票を生かしてもらうための特集号を発行することにした。2日後に投票日を控え、一人でも多くの本校生が投票所に足を運び、若者の声を政治に届けることを願う。

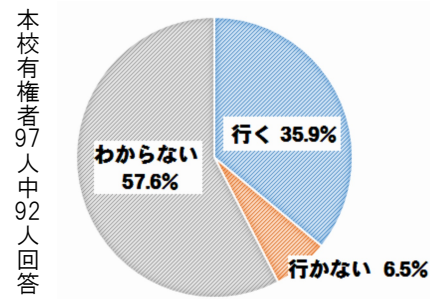
投票「行く」4割

「行かない」少数

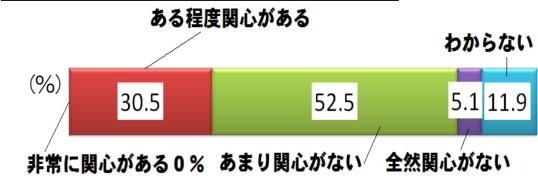
鹿南タイムズでは、6月9～13日にかけて本校3年生(在籍315名)に対して「18歳選挙権に関する意識調査」を実施、有権者92人を含む301人から回答を得た。それによると、本校の有権者92人のうち、7月10日の投票に「行く」と回答した人は35・9%で約4割を占めたほか、「行かない」という回答は数人にとどまり、基本的には投票に対して前向きな声が強かった(問1)。

「わからない」6割の動きが鍵

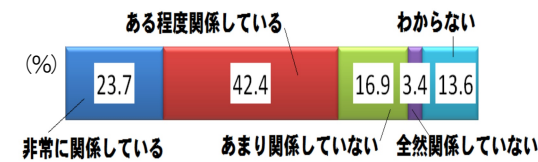
6割の動きが鍵



問1 あなたは、今度の選挙に投票に行きますか。



問2 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。(問1で「わからない」「行かない」と回答した人のみの回答)



問3 あなたは自分自身の生活と政治とはどの程度関係していると考えていますか。(問1で「わからない」「行かない」と回答した人のみの回答)

「わからない」層 政治に関心あり

を分析してみたところ、投票には積極的ではないものの政治に対しての関心は決して低くないことが分かった。例えば、問2では「政治に対する関心」を聞いたが、「非常に関心がある」は0%だったものの、「ある程度関心がある」が30・5%と3割を占めた。また、問3で同じく「わからない」層に、「身近な生活と政治の関係」について聞いたところ、「非常に関係している」と「ある程度関係している」を合わせて66・1%と7割近くが身近な生活と政治がつながっているという認識を示した。つまり、選挙に行くか「わからない」層にも政治に対する関心が高く、投票に対して意欲がある人も相当数含まれていることが見込まれる。そのことを端的に示したのが、同じ層に対する「18歳選挙権について自由に意見を書いて下さい」という自

「高校生の1票で政治家の意識変わる」

党派超え議論 政治身近に

議員との交流会 新聞部4人参加

員を前に緊張してしまい、不安でいっぱいだった。しかし、最初に行われたアイスブレイク(緊張をほぐすゲーム)では、事前に用意された質問カードをもとに、率直な質問を議員の方々にぶつけることができた。この時間を通して、今まで抱いていた遠い世界の存在という議員のイメージが「大きく違う」ということをまず強く感じた。

続いてのディスカッションでは、「選挙に無関心な学生100人に1人でも多く選挙に行ってもらいたい」というテーマで、議員・大学生と率直な意見交換を行った。「ドラマやバラエティ番組で政治について取り扱う」「マスメディアに、政治をより身近に、前向きに報道してもらう」「コンビニなど身近な場所に投票所を設ける」など、様々な意見が飛び出した。議員の方々は、私たちの素朴なアイデアにも懸命に耳を傾けて、メモをとる様子があった。この議論を通して、議員

の方々が、私たち市民の声を真摯に受け止め、熱意をもって接して下さる存在であると感じた。また、議員の方々からは、いかに郷土や国全体のことをいつも思っている、日々力を尽くしていることが伝わってきた。

交流会に参加した衆議院議員の秘書の方は、満18歳以上の若者へ向けて「最初の選挙は何が何でも行って欲しい。自分の考えが洗練されるまで、何度も投票に足を運ぶことが重要」と語った。また別の議員は「みなさんの1票で大きく政治が変わることは少ないかもしれないが、政治家の意識は大きく変わる。高校生の有権者の皆さんにはぜひ選挙に行ってください」と語り、まず、若者の有権者が第一歩を踏み出すことの大切さを説かれた。

私たち4人は、この交流を通して、政治が身近な存在であることを実感できた。こうした政治の党派性を超えた交流の企画は県や市などの主催でも積極的に行われている。政治との距離を感じている生徒は、まずはこのような交流の企画に参加してみよう。

今回の交流会に参加した私たち4人はまだ今回の選挙では有権者ではないため、今回投票ができる3年生のことをうらやましく感じた。自らの意思で郷土や国を託せる人を選べることは本当に素晴らしいことだと思う。



※「NPO法人ドットジェイビー」の活動詳細は、文部科学省のHPに紹介されている。

由記述の設問に対して回答した13人のうちなんと8人が「もっと積極的に参加するべき」などと、18歳選挙権に前向きな回答を記述していた。本紙では、第2面

海岸線

「流行」とは落とし穴だ。あまり知りもせずに周囲の風潮に合わせ

う。世の中の新しいものに敏感な高校生にとって流行を追うことは一つのステイタスだ。▼昔流行った「バナナダイエット」は多くの人が実践したが、成功した実例が少なかったのかいつの間にか熱気は冷めてしまった。インターネットですぐに情報が拡散する時代、「バナナダイエット」のような流行も数多く存在しており、日々生み出されている。▼しかし、流行として一過性で終わらせてはいけけないものもある。7月10日に実施される参議院議員選挙は、日本ですべて、18歳以上の若者が投票行動を行う。高校生が在校中に国政選挙にかかわるという歴史的な事件だ。▼投票日まで刻一刻と近づく今、連日マスコミの報道が熱を帯び、大きな話題となっている。これを、18歳選挙権ブームのように感じる瞬間がある。▼しかし、この話題を一時の流行に止めるべきではない。ダイエットのよう

